

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

平成 22 年度 富山いずみ高等学校アクションプラン — 1 —		
重点項目	学 習 活 動	
重点課題	学力の向上と定着を図る家庭学習習慣の確立	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路目標が多様であることから、それぞれに応じた家庭学習の量や必要な学力が様々であるため、教科によって成績にばらつきが見られる生徒が多い。 生徒の中には進路目標が明確に定まらないことが、学習意欲に影響を与えている場合があり、自学自習の習慣が身に付いていない生徒や家庭学習をしない生徒も見受けられる。 平成 21 年度の生徒の授業に対する満足度(アンケート調査)は、3.9 / 5.0 であった。 	
達成目標	①家庭学習時間を平均 2 時間以上にする。	②授業の内容を充実し、確かな学力を身に付けさせる。
	実態調査での達成度	アンケート調査での生徒の授業に対する満足度
	70%	4.0 / 5.0 以上 (5 点満点で全教科・全生徒平均)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 望ましい生活パターンを各自で作らせ、進路を意識した学習習慣の定着・改善を図る。 担任等による面接指導を充実する。 小テストや課題テストを計画的に実施し、学力の伸長や定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業に関する満足度調査を学期に 1 回実施する。 各授業のねらいを明確にして、その目標を達成するための授業の工夫をする。 互見授業を年 1 回以上実施し、指導法等の授業改善に関する研修会を行う。

(評価基準 A : 達成した B : ほぼ達成した C : 現状維持 D : 現状より悪くなった)

平成 22 年度 富山いずみ高等学校アクションプラン — 2 —			
重点項目	学 校 生 活		
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> 規範意識の向上（正しい制服の着こなしの定着と交通安全意識の高揚） 心のケアサポートの充実 		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 制服の改造や変形を行う生徒はいないが、流行を追い、制服をだらしなく着用する生徒が一部に見られる。 交通安全に関するマナー（自転車、歩行者）のよくない生徒が見られる。 生徒の間に特定のグループを作り行動する傾向が見られ、人間関係に悩む生徒がいる。 		
達成目標	①規範意識の向上	②心のケアサポートの充実	
	『制服の着こなし』『交通安全意識』を含めた規範意識に関するアンケート（5 段階評価）で「守っている」「ほぼ守っている」と自己評価する生徒の割合	ホームルームでのグループエンカウンターを活用	該当生徒の専門家との個別面談の回数
	全校生徒の 9 割以上	年 1 回以上	年 4 回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に服装指導を行う。 「制服着こなしセミナー」を実施する。 生徒会規律委員会の活動を通して、各自の身なりについて考えさせる。 学校周辺の路上で定期的に乗車指導を行う。 定期的に駐輪場における指導を行う。 講師を招いて交通安全に関する講習会を開く。 	<ul style="list-style-type: none"> グループエンカウンターをホームルームに取り入れることによって気心の知れた仲間以外の者との繋がりがもてるようにする。 高校生のための支援事業を活用し、個別面談の機会を提供する。 	

(評価基準 A : 達成した B : ほぼ達成した C : 現状維持 D : 現状より悪くなった)

平成 22 年度 富山いずみ高等学校アクションプラン — 3 —			
重点項目	進 路 支 援		
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・面接指導の充実 ・社会人や大学等の外部講師による講話の実施 ・「産業社会と人間」（総合学科）や様々な進路ガイダンスを通しての進路や職業についての考察の深化 ・進路決定のための基礎学力の充実 		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」（総合学科）や様々な進路ガイダンスを通して、進路や職業について考察を深めているが、進路に対する意識が甘いため、学習が習慣化されていない者もいる。 ・基礎学力が定着していないため、進路選択に苦勞する生徒が見られる。 		
達成目標	①面接指導の充実	②社会人や大学等の先生による講話	③確認テストの実施（1・2学年）
	年 5 回以上	年 3 回以上	各学期 1 回以上
方 策	担任との面接を充実する。また担任以外の先生と話す機会を増やす。	様々な講話を通して、多様な考え方や見方を身に付けさせる。	確認テストの実施により、基礎学力の定着を図る。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

平成 22 年度 富山いずみ高等学校アクションプラン — 4 —			
重点項目	特 別 活 動		
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の充実 ・部活動の充実 ・読書意欲の向上と幅広い読書の推進 ・生徒図書委員会の広報活動の充実 		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会・文化部発表会・スポーツ大会などの学校行事の運営を生徒会執行部や係生徒だけで行うことが多い。今年度は3年に一度のいずみ文化展もあり、学校行事に対して、一般生徒がいかに主体的に参加し、高い満足を得るかが課題である。 ・部活動は、加入率も高く、活動の成果・実績も徐々に上がりつつあるが、生徒の自主的活動という面ではいくつかの問題がある。部長等をリーダーとした組織的な活動がより充実されることが望まれる。 ・生徒一人あたりの年間読書冊数は増加している。しかし、読書習慣が身につけていない生徒もおり、また進路に応じた読書等、多面的な読書まではいたっていない。 ・生徒図書委員会の活動は活発であり、責任感を持って取り組んでいるが、一般生徒への意識付けが十分でない。 		
達成目標	①学校行事の運営・活動に対する満足度	②部活動のリーダーに対する研修	③年間読書冊数
	アンケート調査で80%以上	年3回以上	一人10冊以上（1・2年生）
達成目標	④生徒図書委員会の各行事参加人数		④生徒図書委員会の各行事参加人数
	50人以上		50人以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・活性化を図るため、学校行事の効果的運営を検討実施する。 ・学校行事に対するアンケートを継続実施し、生徒の満足度を調査する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新チームのリーダーを対象に研修会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「LIBRARY」の発行など、機会を捉えて図書を紹介する。 ・「朝読書」の実施、「読書履歴カード」の記入などを通して読書意欲の向上を図る。 ・「統一HR」で各学年に応じた進路に関わるクラス読書等を実施する。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心のあるテーマを設定し、内容を充実させる。 ・ポスターや放送等の広報活動を工夫する。 		

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	進路支援(看護科教育)	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・普通教科科目および専門教科科目の基礎学力の定着と向上 ・看護師国家試験合格を目指した学習指導の確立 ・専門教科への興味・関心の涵養 ・専攻科生の進学・就職指導の充実 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・5年一貫教育で専攻科への入学試験がないため、希望生徒は専攻科へ進学する。中には学習への取り組みが十分でなく基礎学力が定着していないため、専攻科に進学後、進路変更する生徒が見受けられる。 ・看護師養成には国家試験合格が不可欠である。平成 21 年・22 年の国家試験は 2 年連続で全員が合格し、現在も引き続き 100%合格を目指し努力を続けている。 ・専攻科卒業後、保健師・助産師・養護教諭養成機関への入学を希望している生徒がいる。 	
達成目標	①看護師国家試験合格率	②進路希望達成度
	100%	100%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師国家試験に合格する学力と、臨地実習に対応できる力を養うため5年間を見通した指導法の工夫を図る。 ・看護師国家試験の出題基準や内容の改訂に沿った指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に関する情報を提供するとともに希望する進路に向けて個別指導を強化する。 ・専門職種としての意識を高める教科指導法および看護科行事の工夫改善を図る。 ・生徒のかかえる問題、悩み等に対する面接の充実を図る。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)